

資料—5

尾原ダム水源地域ビジョンの
基本理念・地域の目標像・基本方針（案）

1. 尾原ダムにおける水源地域ビジョン
2. 尾原ダム「地域に開かれたダム」整備計画の進捗状況
3. 尾原ダム水源地域の現状
4. 尾原ダム水源地域の課題
5. 尾原ダム水源地域ビジョンの基本理念・地域の目標像・
基本方針（案）
6. 尾原ダム水源地域ビジョンの対象範囲

平成24年9月20日

尾原ダム水源地域ビジョン策定委員会事務局

1. 尾原ダムにおける水源地域ビジョン

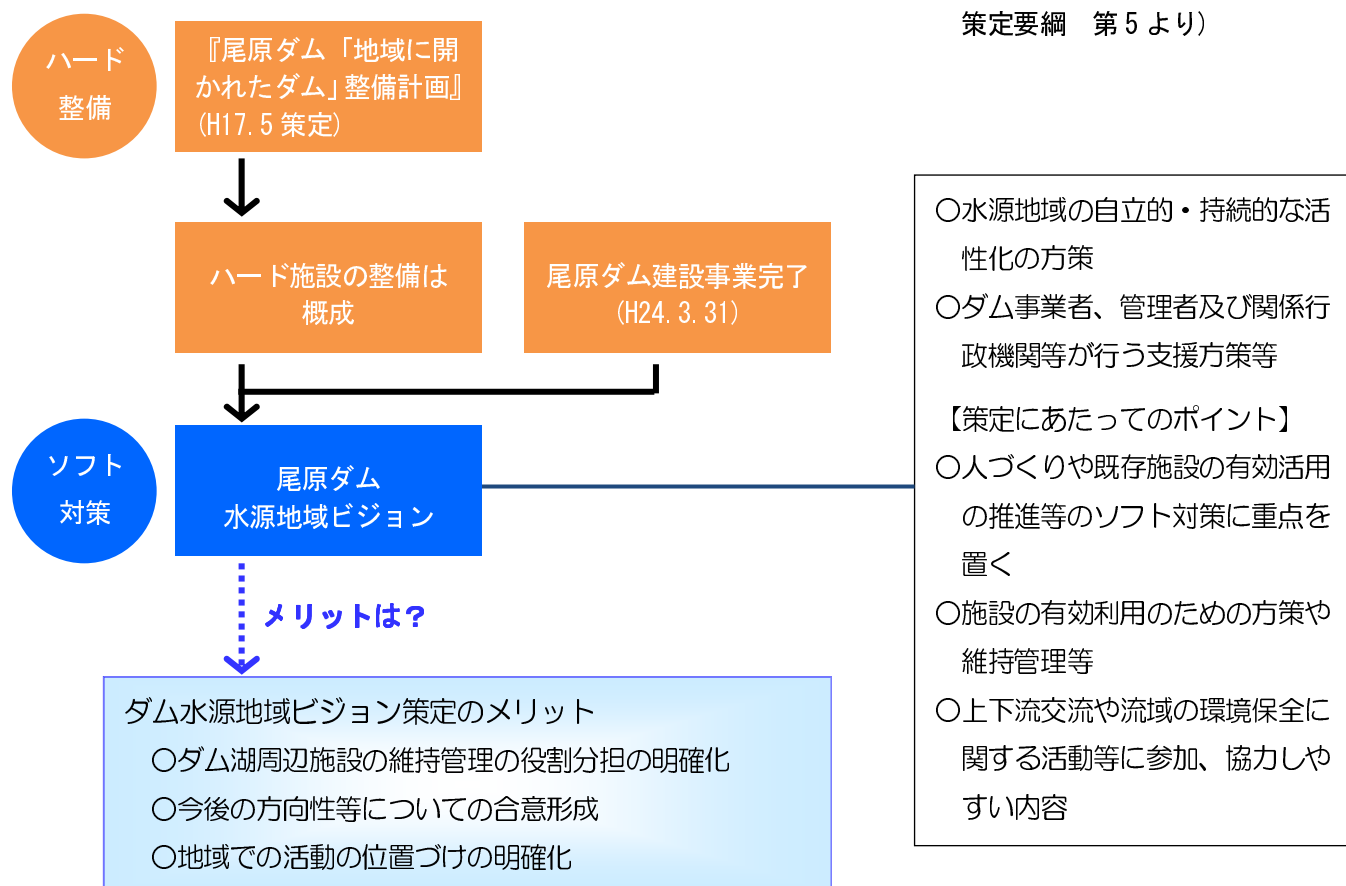
◆ビジョン策定の背景

平成 17 年 5 月には、「ダム湖と周辺地域が一体となった交流圏の形成」を基本理念とした『尾原ダム「地域に開かれたダム」整備計画』が策定され、地域全体の活性化に必要な施設等の整備が計画されました。現在、『尾原ダム「地域に開かれたダム」整備計画』で計画されたダム湖の周辺施設は概成し、積極的に活用されています。併せて、平成 24 年 3 月には尾原ダム建設事業が完成しました。

今後は、『尾原ダム「地域に開かれたダム」整備計画』で整備された周辺施設を活かしながら、上下流交流の継続と活発化を行い、斐伊川流域圏として日常的な交流・連携を推進し、水源地域の活性化を図っていく必要があります。

◆位置づけ

◆策定内容(水源地域ビジョン 策定要綱 第 5 より)



2. 『尾原ダム「地域に開かれたダム」整備計画』の進捗状況

平成 17 年 5 月に策定された『尾原ダム「地域に開かれたダム」整備計画』に則り、ボート競技施設やサイクリング競技施設、エントランス広場などが整備されました。

施設	現状	整備内容	整備主体	整備状況
1. ボート競技施設		・ボート競技陸上施設	国土交通省 島根県	H23 年度 竣工
		・ボート競技湖面施設	島根県	H23 年度 竣工
2. 島根県さくらおろち湖自転車競技施設(サイクリング競技施設)		・競技コース施設	島根県	H23 年度 竣工
		・大会広場	国土交通省 島根県	H23 年度 竣工
3. 尾崎エントランス広場・道の駅おろちの里(エントランス広場(国道 314 号沿い))		・案内施設(標識等)	島根県	H23 年度 竣工
		・物販施設等(道の駅 おろちの里)	島根県 雲南市	H23 年度 竣工
4. 佐白温泉 長者の湯(エントランス広場(県道玉湯吾妻山線沿い))		・案内施設(標識等)	島根県 奥出雲町	H23 年度 竣工
		・物販施設等(佐白温泉・長者の湯)	奥出雲町	H24 年度 竣工
5. 多目的広場(尾白山方)		・イベント広場、駐車場	国土交通省 島根県	H23 年度 竣工
		・植樹、植栽(サクラ・紅葉など)	国土交通省 島根県 雲南市 奥出雲町	H23 年度 竣工

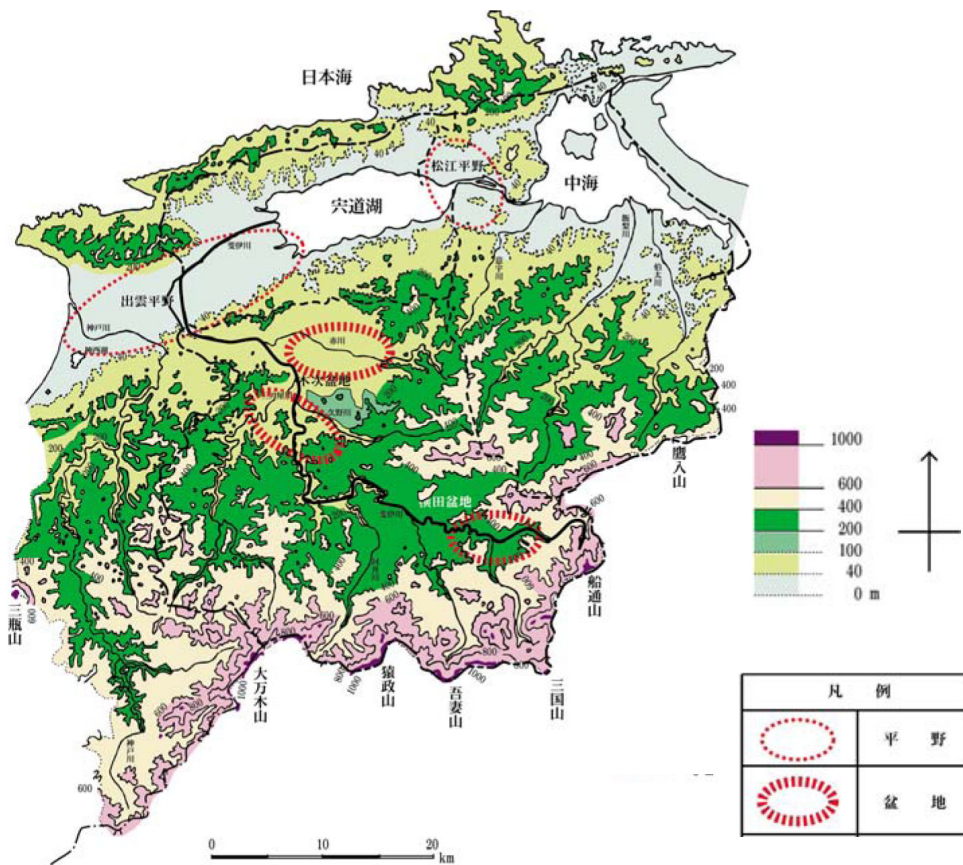
施設	現状	整備内容	整備主体	整備状況
6.雲南市尾原地域づくり支援センター（交流施設）		・既存PR館などの活用（転用） （合宿等に利用）	国土交通省 雲南市	H24 年度 竣工
7.ダム管理施設		・ダム本体、堤頂道路、公園（左右岸）	国土交通省 雲南市	H24 年度 竣工
		・モニュメント（左岸）	雲南市	H24 年度 竣工
		・ダム資料館機能（展示コーナー）	国土交通省	H24 年度 完成
8.連携案内施設		・周辺の施設に係る情報を提供（案内板）	島根県	H23 年度 竣工
9.下布勢農村体験施設(植樹・植栽(自然・学習の森づくり(下布勢)))		・市民農園	雲南市	H23 年度 竣工
		・ホースセラピー	雲南市	整備中
10.植樹・植栽（みのりの森づくり(前布勢))		・活用方法を検討中	奥出雲町	検討中
11.岩内山展望広場(展望施設)		・四阿等	島根県	H22 年度 竣工
12.散策登山道（岩伏山散策登山道）		・既設の登山道	島根県	H22 年度 竣工
追加:尾白山方放牧地		・放牧地の整備	雲南市 奥出雲町	整備中

3. 尾原ダム水源地域の現状

【自然環境】

◆地形

斐伊川は船通山（標高 1,143m）に端を発し、横田盆地を緩やかに流れ、その後山間溪谷部を急流となって流下しています。谷が開けた中流部では、久野川、三刀屋川、赤川などの支川の合流点に比較的幅の広い谷底平野が存在します。斐伊川は、かつて「鉄穴流し」と呼ばれた山砂からの砂鉄採取に伴う廃砂により、中下流部では多量に流入した土砂で天井川が形成され、網状砂洲が発達した典型的な砂河川となっています。下流部は、斐伊川からの流出土砂の堆積により形成された出雲平野が広がり、標高 5m 程度と標高差があまりないことから、災害がおきやすい地形です。



地形図

出典：国土省河川局「斐伊川水系河川整備基本方針」・出雲河川事務所作成資料

◆気象

斐伊川流域の気候は、一般的には日本海型に属するとされていますが、日本海型よりも冬の降水量が多く、また、夏に降水量が集中する傾向を示し、山陰型あるいは準日本海型気候といわれています。

水源地域である上流部は下流部と比較して年間降水量は大きく、冬季はその傾向が顕著です。年間降水量は、上流部で 2,000mm を超え、下流部では 1,800mm です。積雪は、12 月から降雪がみられ、1 月には根雪となります。年間平均気温は 12℃ 前後とほぼ全国平均なみであるが、寒暖の差は大きくなっています。

◆植生

斐伊川流域の自然植生は、上流部はブナ帯に属し、下流部は照葉樹林帯に属しています。ブナ帯はブナによって代表される落葉広葉樹林帯で他にイヌブナ、ミズナラ、トチノキ、クリ、シデ類、カエデ類、シナノキ、カツラなどが含まれ、地域によっては、スギ、ヒノキなどの針葉樹がみられます。ブナ林は船通山、猿政山などの山頭や山腹斜面に存在しますが、自然ブナ林は伐採され、コナラ、アカマツなどの二次

林やスギの植林地が多くなっています。照葉樹林帯にあたる低地においてはシイ類が代表的で、中海周辺の平野と丘陵地の境界付近に点在しています。

尾原ダム水源地域（雲南市・奥出雲町）の約8割は豊かな森林（水源林）に覆われており、豊かな水資源を育んでいます。このような豊かな水源林を保全するとともに、民有林においては間伐などの持続的な管理を行い、豊かな水資源の保全・管理につなげていくことが必要です。

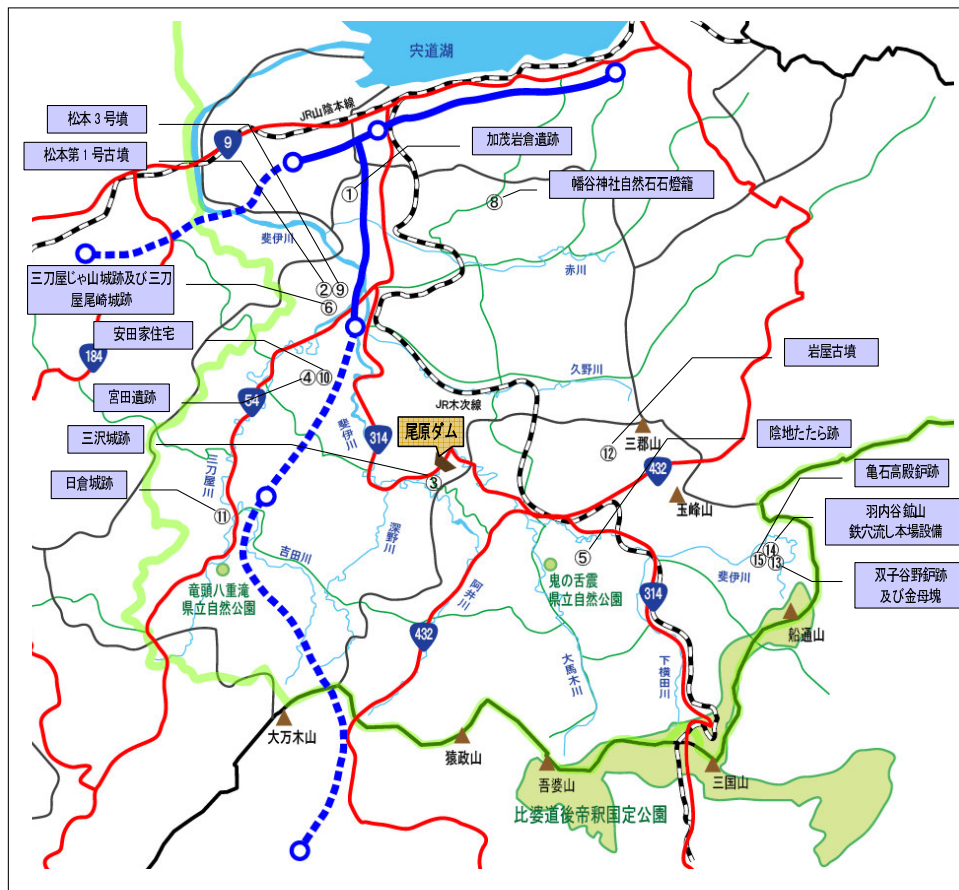
◆動物

水源地域には、上流部の水際にヤマセミ、キセキレイ、中流部にはカワセミが生息しています。魚類は、水温が低く清い流れの上流部にタカハヤ、ゴギ、ヤマメ、中流部にはオイカワ、カワムツが生息しています。哺乳類としては、ノウサギの生息が広く確認され、斐伊川流域全域に生息しています。両生類では、国指定の特別記念物であるオオサンショウウオが、斐伊川源流部に広く生息しています。また、学術上の観点から重要と認められる種として、カジカガエルが確認されています。このように、森林と清流に育まれる豊かな生態系を保全していくことが必要です。

【歴史・文化】

尾原ダム周辺地域が属する出雲地方は、「八岐大蛇伝説」や「国譲り」「国引き」などの神話の舞台として多くの歴史的、文化的資源を有する地域です。

特に、尾原ダムが存在する斐伊川流域は、「八岐大蛇」神話の舞台であり、斐伊川にくだったスサノオノミコトがヤマタノオロチを退治し、イナタ姫と結ばれたといわれています。このような伝承やオロチそのものは、周辺の地域住民にとって身近に感じることでできるシンボリックな存在となっています。



国指定・県指定文化財の分布

出典：島根県ホームページ 島根の史跡より作成

また、伝説に由来する多くの史跡・旧跡、地名が点在しており、ヤマタノオロチ神話をモチーフとした伝統芸能「槻ノ屋神楽」や「日登神楽」の保存と継承が積極的に行われています。

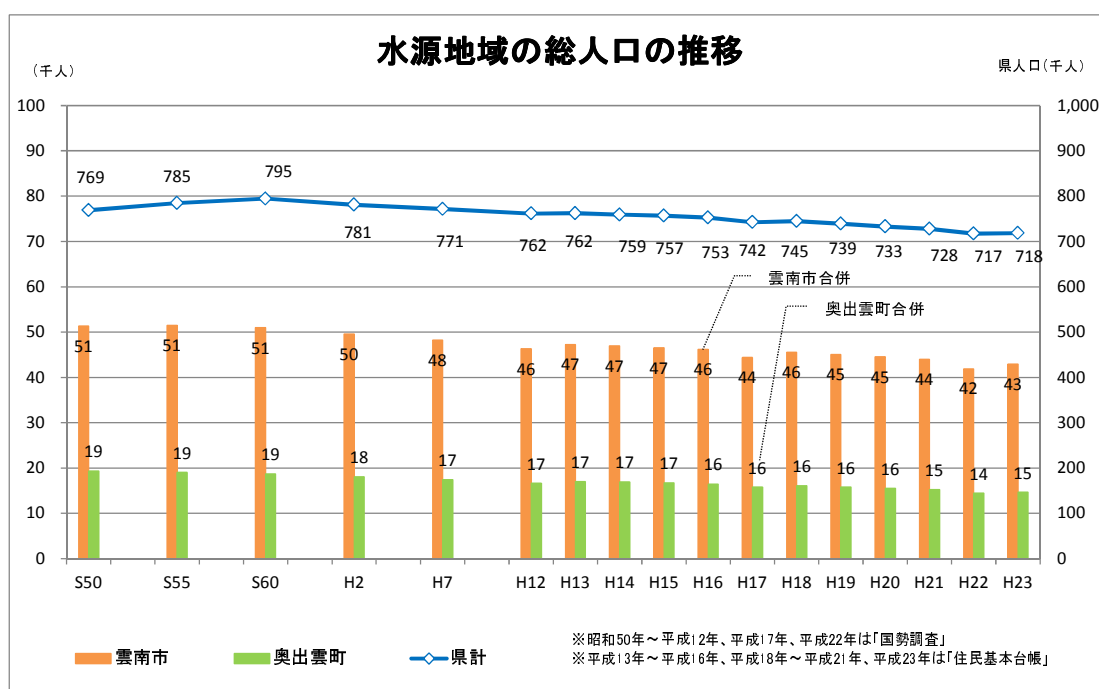
近年になり、「たたら製鉄」が文化面や美術的見地から復元されるなど、地域の歴史的・文化的な資源を活用した魅力ある地域づくりが進められています。今後も、地域の自然と歴史・文化等の資源の活用が求められます。そして、このような豊かな自然や景観を観光・交流へ活用していく取組の充実が期待されます。

【社会環境】

◆総人口の推移

雲南市の人口は42,957人、奥出雲町の人口は14,674人です（H23住民基本台帳）。

両地域とも総人口は昭和50年から減少傾向が続いており、その度合いは島根県全体と比較して大きい傾向にあります（島根県 93.41%、雲南市 83.61%、奥出雲町 75.65%（昭和50年と平成23年度の人口比較））。



水源地域の総人口の推移

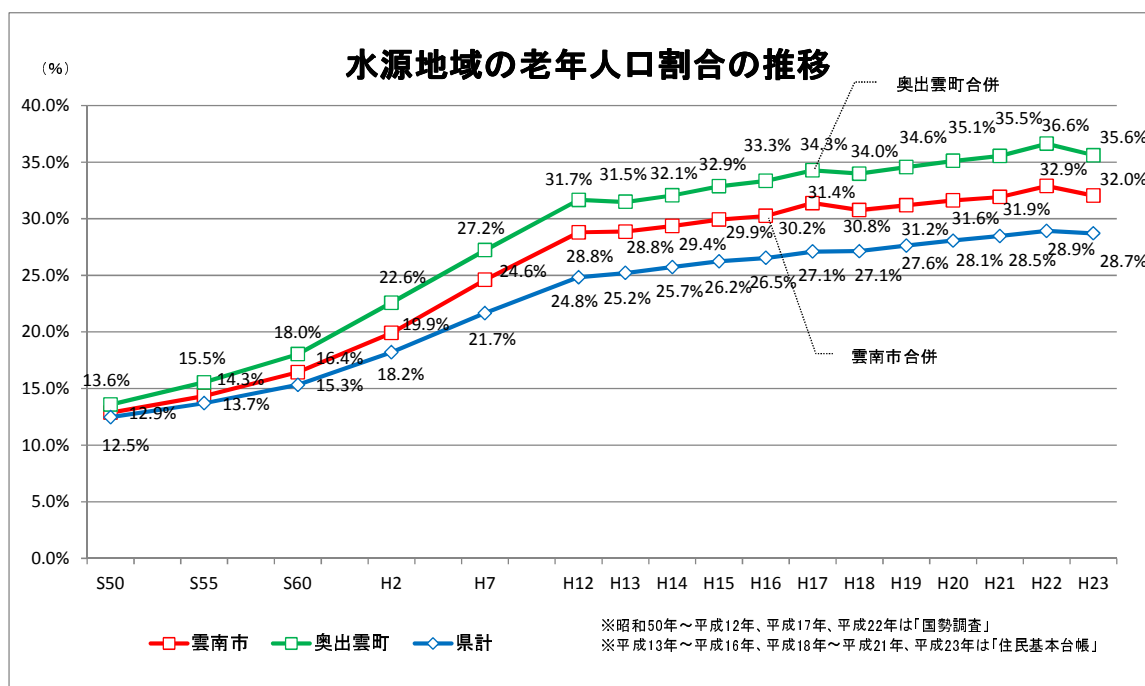
出典：国勢調査(S50～H12、H17、H22)、住民基本台帳(H13～H16、H18～H22)より作成

◆高齢化の推移

水源地域の老年人口構成比は、平成23年で雲南市が32.0%、奥出雲町が35.6%となっており、島根県平均28.7%よりも高い割合となっています。

昭和50年からの推移をみると、昭和50年から平成12年の25年間で雲南市が15.9%の増加、奥出雲町が18.1%の増加と急激な高齢化が進展しました。その後は、横ばい、もしくは微減傾向にあります。

高齢化率の進行は、水源地域の活性化に影響を与えるため、担い手の育成の推進が望まれます。

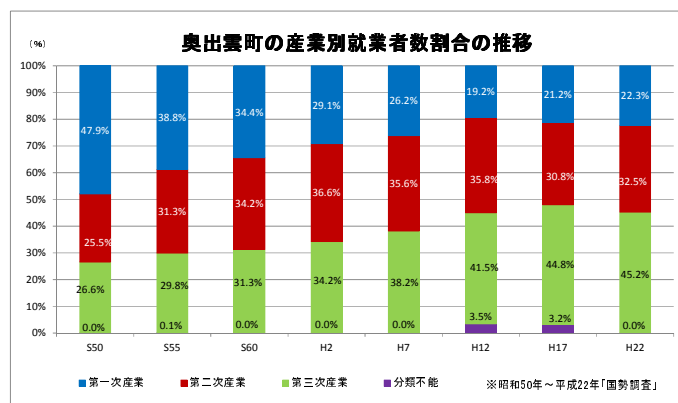
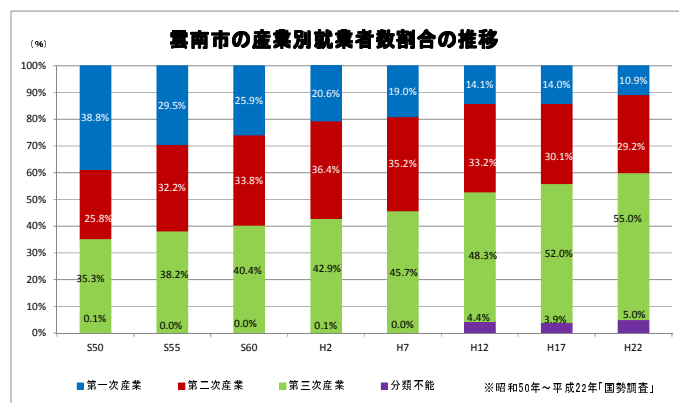


水源地域の老年人口割合の推移
 出典：国勢調査(S50～H12、H17、H22)、住民基本台帳(H13～H16、H18～H22)より作成

【産業】

産業分類別にみると、特に第一次産業での減少が大きく、構成比も雲南市では、昭和50年の38.8%から平成22年には10.9%、奥出雲町では、昭和50年の47.9%から平成22年には22.3%と大きく減少しています。第二次産業では若干の増加傾向、第3次産業では増加傾向です。平成22年の構成比でみると雲南市では、第3次産業は全体の5割を超えています。

また、尾原ダム水源地域の農業は、豊かな森と水などの自然資源を活用し、全国的なブランドになった仁多米をはじめ、遠方からもその味を求めて来訪者がある奥出雲そば、山菜、奥出雲ワイン、トウガラシなどの地域製品の販売促進が図られています。今後も、豊かな水と大地が育む特徴のある地域産業の振興を図り、地域製品の開発と販売を促進していくことが望まれます。



産業別就業者数の割合の推移

出典：国勢調査より作成

【交通網】

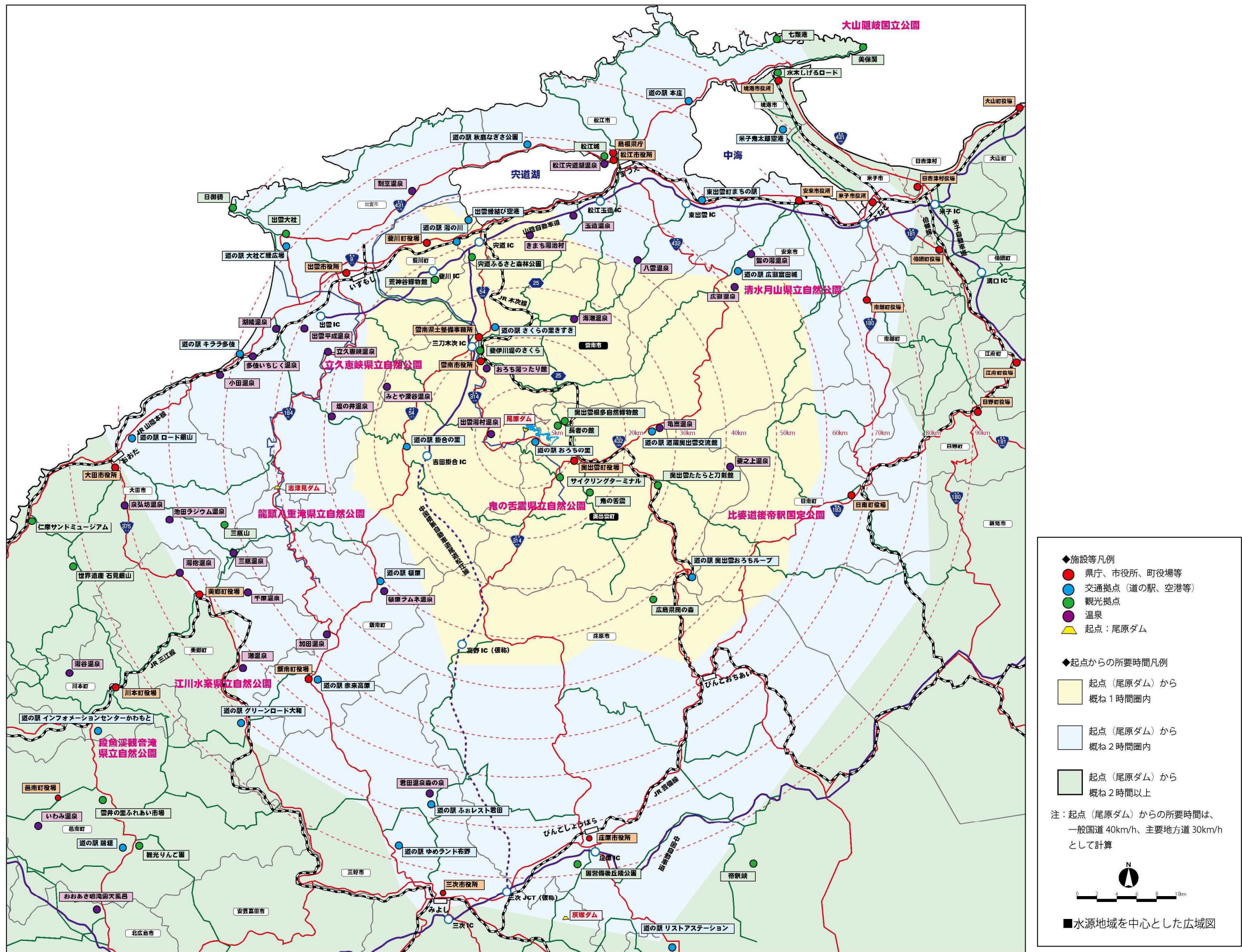
尾原ダム周辺には広島県へと繋がる一般国道が3路線通っており（東から国道432号、国道314号、国道54号）、尾原ダムはこのうち、国道314号の近傍に立地しています。東西方向には、斐伊川下流部を渡河し、出雲平野を横断する国道9号のほか、山陰自動車道が松江市－出雲市間を繋いでいます。

山陰自動車道より山陽側へ延びる中国横断自動車道尾道松江線は、尾原ダムの西側を通過し、尾道市へと繋がる計画となっており、島根県内の供用区間は雲南市に位置する吉田掛合ICより北側のみとなっていますが、平成24年度中には三次ジャンクションまで暫定開通する予定です。さらに、平成26年度に全線供用（暫定）予定です。

尾原ダムへのアクセスは、流域の中核都市である出雲市からは県道26号、国道314号を斐伊川沿いに南下、松江市からは山陰自動車道－中国横断自動車道尾道松江線－314号または県道25号を経由するルートが一般的です。また、広島県側の中核都市である庄原市や三好市からは、国道183号、314号を北上するルートが一般的であり、尾原ダムまでそれぞれ1～2時間程度の時間距離となっています。

さらに、中国横断自動車道尾道松江線が三次ジャンクションまで開通することにより、三好市や庄原市からのアクセスが向上します。

このようなことから、尾原ダム水源地域は、その下流域の松江市、出雲市からのアクセス、また、広島方面からのアクセスが充実してきています。このような広域とのアクセスの利便性を活用した交流が重要です。



広域交通網図

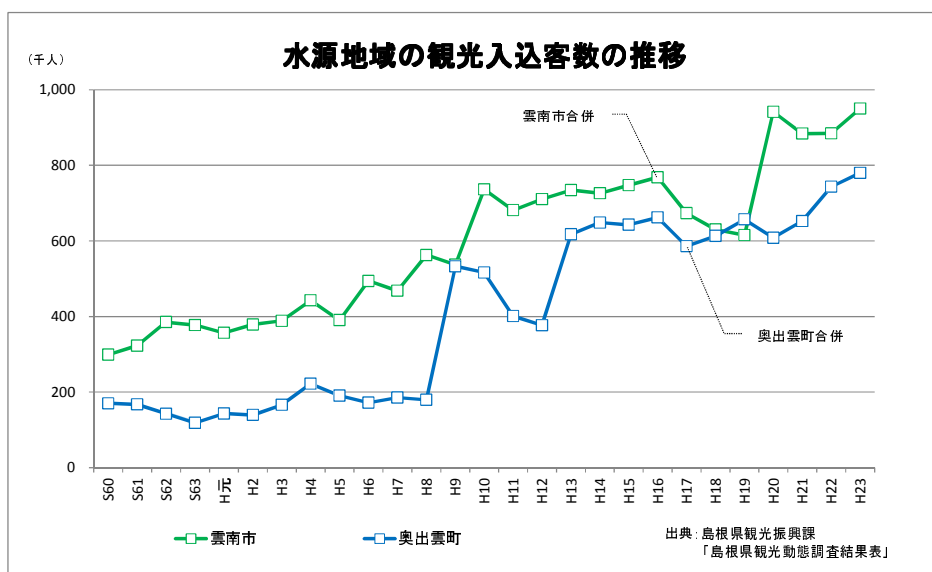
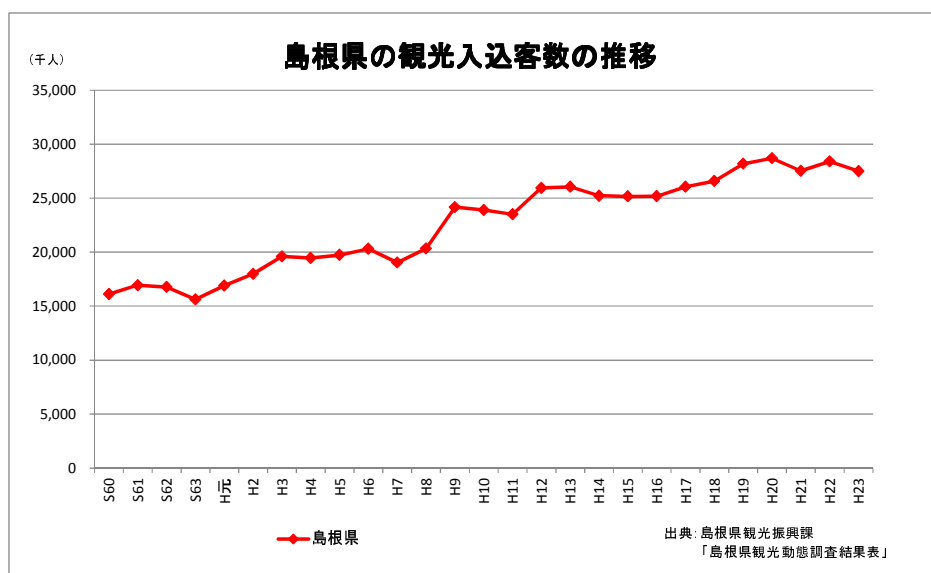
【観光】

入り込み観光客数の推移をみると、島根県全体では増加傾向にあります。雲南市、奥出雲町についても、各年で増減はあるものの、概ね増加傾向にあります。

尾原ダム周辺では、平成 23 年度に「さくらおろち湖自転車競技施設」や「さくらおろち湖ボート競技施設」、「道の駅 おろちの里」が開設するとともに、平成 24 年に「奥出雲佐白温泉「長者の湯」」や「交流施設「三沢の館」」が開設するなど、尾原ダム周辺における上下流交流の施設整備が進み、観光客の増加が期待されています。

また、国民体育大会島根県予選会（ボート競技・自転車競技）が開催されるなど、尾原ダム及びその周辺が、スポーツ施設の拠点として活用されています。さらに、さくらおろち湖レガッタや中国高等学校ボート選手権大会、さくらおろち湖サイクルロードレース、中国地方自転車道路競技大会など、様々な大会が積極的に開催されています。

今後も、ボート競技施設やサイクリングターミナルなどを活用し、さくらおろち湖を、地域住民だけでなく、斐伊川下流域の都市住民などに対して健康増進・レクリエーションの拠点として活用していくことが望まれています。



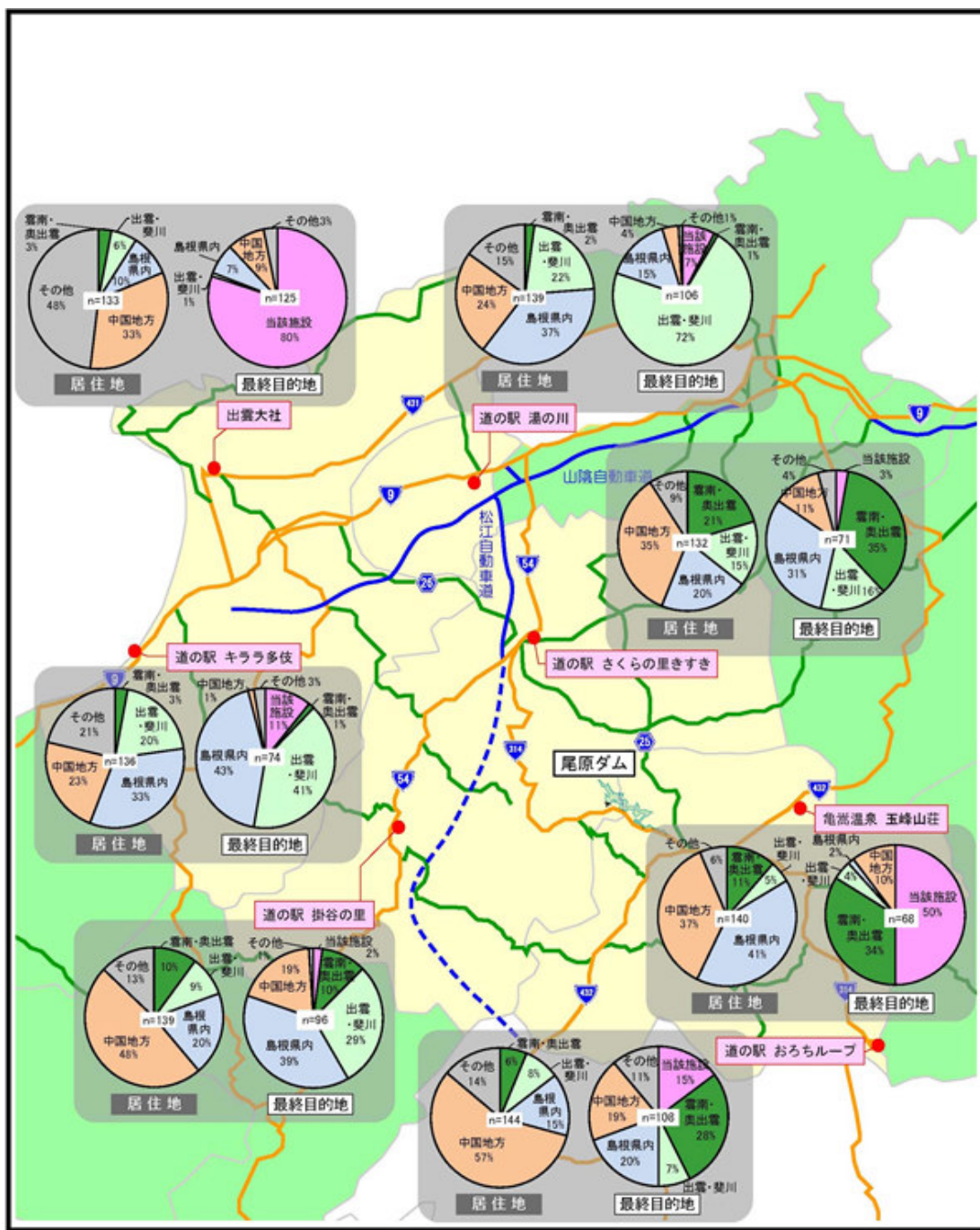
水源地地域の観光入込客数の推移

出典：「島根県観光動態調査結果表」（島根県観光振興課）より作成

【参考：水源地動態調査（広域利用実態調査）、H23 年度調査】

① 観光客の動向と尾原ダムへの人の流れ

雲南市・奥出雲町の4施設では、（島根県以外の）中国地方居住者の割合が高く（35～57%、その多くは広島市）、また最終目的地として雲南市・奥出雲町と回答した人の割合も比較的高かった。

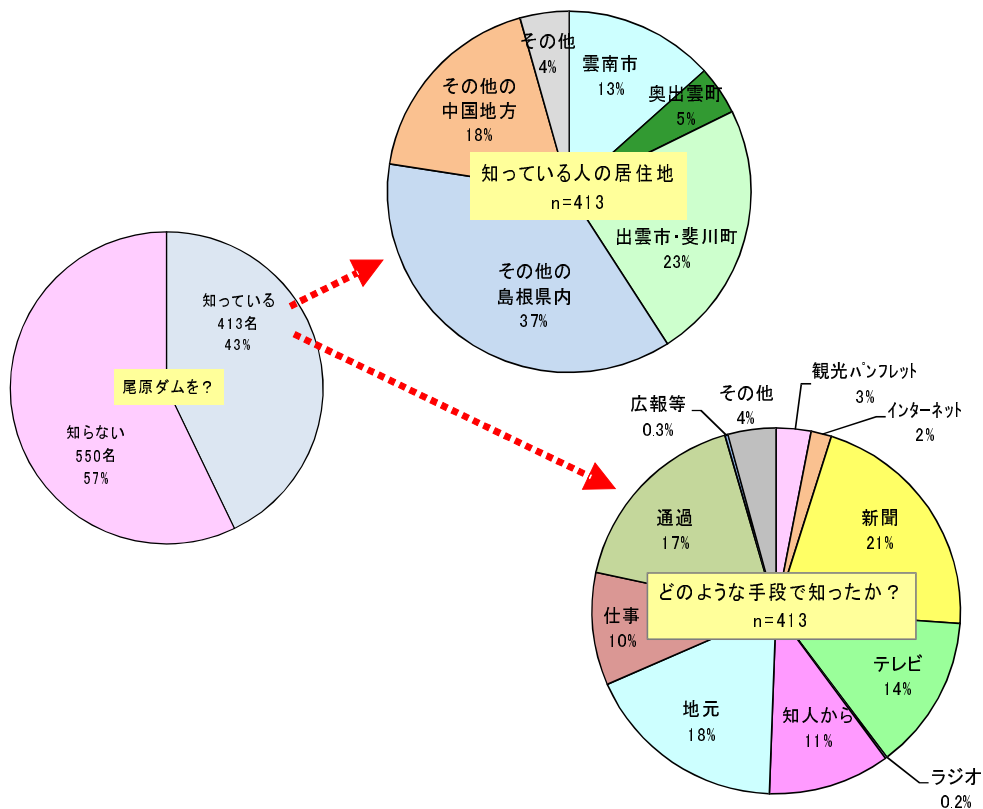


アンケート回答者の居住地と目的地

② 尾原ダムの認知度

尾原ダムの認知度は43%と高く、概ねその4割が関連4市町、4割がその他の島根県内、残りの2割が県外の居住者となっており、比較的近傍の居住者が高い割合を占めている。

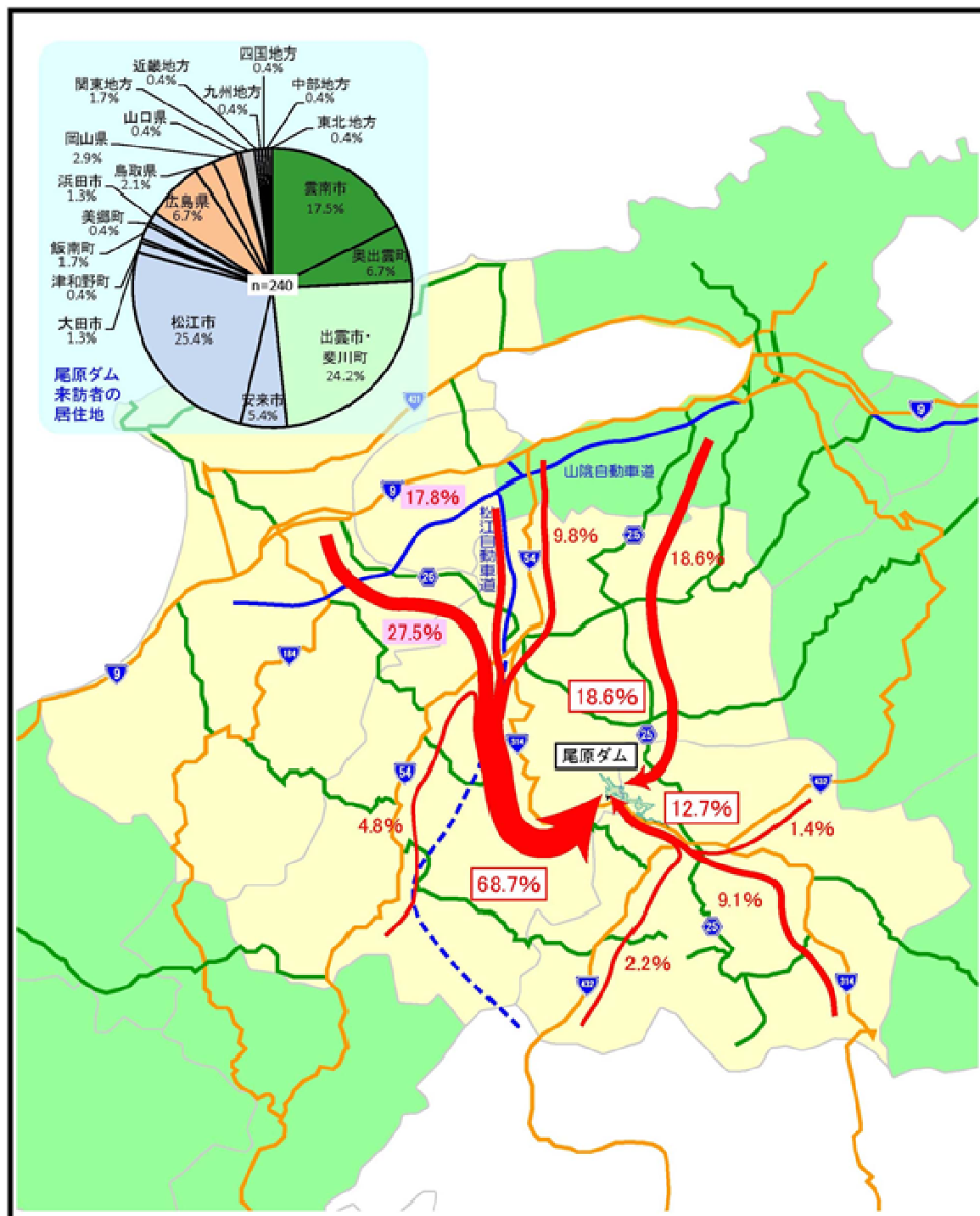
また、情報源は「地元で昔から知っていた」が18%であったほか、新聞・テレビ等のマスメディアが4割と高い割合を示しているものの、「国道314号通過中に気付いた」、「知人から聞いた」、「仕事の関係で知った」など、マスメディア以外を情報源とした人も4割程度と高い割合を占めている。



尾原ダムの認知度と情報源

③ 観光客の尾原ダムへの人の流れ

出雲方面からの県道 26 号、松江市からの県道 25 号、国道 54 号及び県外者も含めた松江自動車道など、北側からのアクセスが主流となり、一方、南側からも国道 314 号、国道 432 号などを利用し、10%程度がアクセスしているという結果となった。



尾原ダム来訪者の居住地

【地域活動】

◆水源地域で実施されている主な活動

尾原ダム水源地域では、平成 17 年に策定された「尾原ダム『地域に開かれたダム』整備計画」に基づき、国土交通省・島根県・雲南市及び奥出雲町において、湖面と湖周辺のダム周辺整備がほぼ概成しており、様々なイベントなどに活用されています。

1) 主な活動状況等

① 平成 23 年 10 月 16 日：尾原ダム・さくらおろち湖祭り 2011 (7 回目)

「平成のおろち退治」と言われる斐伊川治水事業、その斐伊川上流にできた尾原ダムによって出現した湖「さくらおろち湖」畔で上下流交流を実施。

② 平成 24 年 5 月 20 日：～昭和 47 年 7 月水害から 40 年～斐伊川流域の治水を考える集い

斐伊川流域を襲った昭和 47 年 7 月水害から 40 年目の年であり、改めて斐伊川流域の治水について考えることを目的として上下流交流を実施。

③ 平成 24 年 8 月 19 日：幸雲南 DAY ROCK FESTIVAL

斐伊川流域で活動しているロックバンドが集まり、音楽を通した上下流交流を実施。

④ 平成 24 年 9 月 16 日：斐伊川夕刻かがり～斐伊川上流のさくらおろち湖に大蛇現れ神々が集う～

水源地域に伝承されている神楽や太鼓などの演舞を通した上下流交流を実施。

■ 平成 24 年 10 月 21 日：尾原ダム・さくらおろち湖祭り 2012（予定）

■ 平成 23 年 5 月 15 日～：「島根県さくらおろち湖自転車競技施設」の活用状況

島根県自転車競技選手権大会や中国地方高等学校対抗自転車競技選手権大会兼中国地域自転車道路競争大会、国民体育大会島根県予選など、「島根県さくらおろち湖自転車競技施設」を活用した大会を開催。

一般のサイクリングイベントとして、平成 23 年度から「奥出雲サイクリング」を開催。

■ 平成 23 年 10 月 16 日～：「島根県さくらおろち湖ボート競技施設」の活用状況

さくらおろち湖レガッタ兼中国高等学校ボート選手権島根県予選会やお花見レガッタ、国民体育大会島根県予選会など、「島根県さくらおろち湖ボート競技施設」を活用した大会を開催。



尾原ダム・さくらおろち湖祭り 2011
(H23. 10. 16)



夏ロックフェス in 尾原ダム
(H24. 8. 19)



第 1 回さくらおろち湖お花見レガッタ
(H24. 5. 13)

2) 活性化事業等

地域づくりを目的とした様々な組織が設立され、多様な活動が実施されています。

年度	地域づくり活動等	その他	備考
H16 年度	・「尾原ダム地域づくり活性化研究会」 設立 (H17.2.28)	「尾原ダム地域づくり推進連絡協議会」の5つのテーマ (H22.2.20 策定) ①斐伊川水系の自然環境や地域で育まれている文化活動を活かした地域づくりの推進 ②周辺地域の関連組織の相互理解と地域づくり推進のための連絡調整 ③地域住民、地域経済界、地元自治体などの連携による地域づくりの推進 ④斐伊川水系の水を軸とした上流、中流、下流の流域間交流の推進 ⑤水源地域の農林水産業、商工業、サービス業などの産業の振興と育成	
H21 年度	↓ ・「(仮称)尾原ダム活性化推進連絡協議会設置ワーキング会議」設立 (H21.6.18) ・「尾原ダム地域づくり推進連絡協議会」設立 (H22.2.20)		
H22 年度	↓ ・「NPO 法人さくらおろち」設立 (H23.3.25)	・「NPO 法人奥出雲布勢の郷」設立 (H23.3.14)	
H23 年度	・「水源地域アドバイザー制度」活用 (H23.12.2～12.4、H24.1.13～1.15、 H24.3.10～3.12) ・「新しい公共の場づくりモデル事業」 (島根県交付金事業、H23 年度～H24 年度) ・「食と地域の交流促進対策交付金事業 (食と地域の交流促進集落活性化対 策)」(農林水産省交付金事業、H23 年度～H24 年度)	・「NPO 法人ふる里雲南」設立(H23.4.13) ・道の駅「おろちの里」供用開始(H23.4.28、 指定管理者：NPO 法人ふる里雲南) ・「島根県さくらおろち湖自転車競技施設」 竣工(H23.5.15、一部委託：NPO 法人さ くらおろち) ・「島根県さくらおろち湖ボート競技施設」 竣工(H23.10.16、一部委託：NPO 法人さ くらおろち) ・尾原ダム建設事業完了(H24.3.31)	
H24 年度	・「尾原ダム水源地域ビジョン策定委員 会」設立 (H24.9.20) ・「尾原ダム水源地域ビジョン作業部会 (仮称)」設立予定	・交流拠点施設「みざわの館」竣工(H23.4.1、 指定管理者：とんぼの会) ・奥出雲佐白温泉「長者の湯」竣工 (H24.4.28、指定管理者：NPO 法人奥出 雲布勢の郷)	・過疎地域等自立活性化 推進交付金事業「水の 縁 ^{えにし} による新たな出雲 の国づくり ～斐伊 川・神戸川流域におけ る命の絆事業」(総務 省)

このように尾原ダム水源地域では、湖面と湖周辺の周辺施設を活かし、様々な地域づくりが行われています。

今後は、多様な関係者の連携によって、地域の自然・歴史・文化等の資源・魅力を活かすことが必要で
す。地域の関係者の相互理解による取組を充実させながら、水源地域としての一体感を醸成していくこと
が求められます。そして、上下流交流の継続と活発化を行い、斐伊川流域圏として、日常的な交流・連携
を推進していくことが重要です。

そのためには、地域が一体となって推進していくことができる体制を発展させ、自立的・持続的な取組を行っていく必要があります。取組のための人材、資金、ノウハウの充実を図るとともに、地域の活動団体等の人材の育成が求められます。

4.尾原ダム水源地域の課題

前項までで整理した尾原ダム水源地域の現状と平成 21 年度や平成 23 年度に行政関係者、地域活動団体などを対象とした聞き取り調査の結果を踏まえ、水源地域の課題を「尾原ダム水源地域づくり推進連絡協議会」で設定された 5 つの事業・活動のテーマ毎に分類・整理しました。なお、5 つのテーマ毎に共通する課題として「水源地域の自立的・持続的な流域圏の基盤の構築」を設けました。

さらに、6 つのテーマ毎の課題を総括した「地域づくりに必要な行動」を設定しました。

【5つの事業・活動テーマによる課題の分類・整理】

【地域づくりに必要な行動】

①斐伊川水系の自然環境や地域で育まれている文化活動を活かした地域づくりの推進

- ・豊かな水資源の保全・管理が必要
- ・地域の歴史的・文化的な資源を活用した魅力ある地域づくりが必要
- ・豊かな自然環境や景観を観光・交流への活用の充実が必要
- ・適切な森林管理と森林整備、河川・ダムの環境管理の継続・充実が必要
例えば、
 - ・低迷する木材価格、不在所有者の増加などにより手入れが不足している水源林の整備など

豊かな森と水の資源の保全と活用

②周辺地域の関連組織の相互理解と地域づくり推進のための連絡調整

- ・地域の関係者の相互理解による取組の充実が必要
- ・水源地域としての一体感の醸成が必要
- ・地域が一体となって推進していくことができる体制の充実が必要

水源地域・流域圏の連携の推進

③地域住民、地域経済界、地元自治体などの連携による地域づくりの推進

- ・水源地域の多様な関係者の連携によって、地域の自然・歴史・文化等の資源・魅力を活かすことが必要
- ・水源地域の資源や魅力を活用した地域づくり、地域産業の振興、歴史・文化の継承などの活動の充実が必要

水源地域の自然・歴史・文化等の資源・魅力の活用

④斐伊川水系の水を軸とした上流、中流、下流の流域間交流の推進

- ・「斐伊川流域圏」として日常的な交流・連携の推進が必要
- ・上下流交流の継続と活発化が必要
- ・中国自動車道尾道松江線など、広域とのアクセスを活用した交流が必要
- ・さくらおろち湖や周辺施設を健康増進・レクリエーションの拠点とした活用が必要

さくらおろち湖を活かした流域圏の交流・連携の推進

⑤水源地域の農林水産業、商工業、サービス業などの産業の振興と育成

- ・特徴のある地域産品の開発・ブランド化と販売促進の充実が必要
- ・豊かな森と水が育む水源地域の特徴のある地域産業の振興が必要
- ・地域の自然と歴史・文化などの資源を活用した産業振興が必要

森と水が育む水源地域の産業の振興

+

◎水源地域の自立的・持続的な流域圏の基盤の構築

- ・水源地域の活性化に向けた取組のための人材、資金、ノウハウの獲得
例えば、
 - ・自立的・持続的な取組が必要
 - ・取組のための人材、資金、ノウハウの充実が必要
 - ・地域の活動団体や団体等の人材の育成が必要

自立的・持続的な流域圏の基盤構築

5. 尾原ダム水源地域ビジョンの基本理念・地域の目標像・基本方針（案）

【基本理念（案）】

尾原ダム水源地域では、斐伊川の源流をなす森林や清流などの豊かな自然環境及び魅力ある歴史・文化、地域資源や地域産業及び尾原ダム周辺の様々な施設等の総合的な活用により、水源地域の持続的な発展を目指し、地域内・斐伊川流域圏の連携による地域の活性化を進めていきます。

【地域の目標像（案）】

斐伊川流域圏の連携による尾原ダム周辺地域の持続的発展

【地域づくりに必要な行動】

自立的・持続的な流域圏の基盤構築

豊かな森と水の資源の保全と活用

水源地域の自然・歴史・文化等の資源・魅力の活用

水源地域・流域圏の連携の推進

さくらおろち湖を活かした流域圏の交流・連携の推進

森と水が育む水源地域の産業の振興

【基本方針（案）】

◆水源地域の基盤を構築する

◆豊かな自然環境を守り、育む

◆水源地域の資源・魅力を活かす

【メニュー例】

・ 自立的かつ持続的な水源地域経営と人材育成を図る

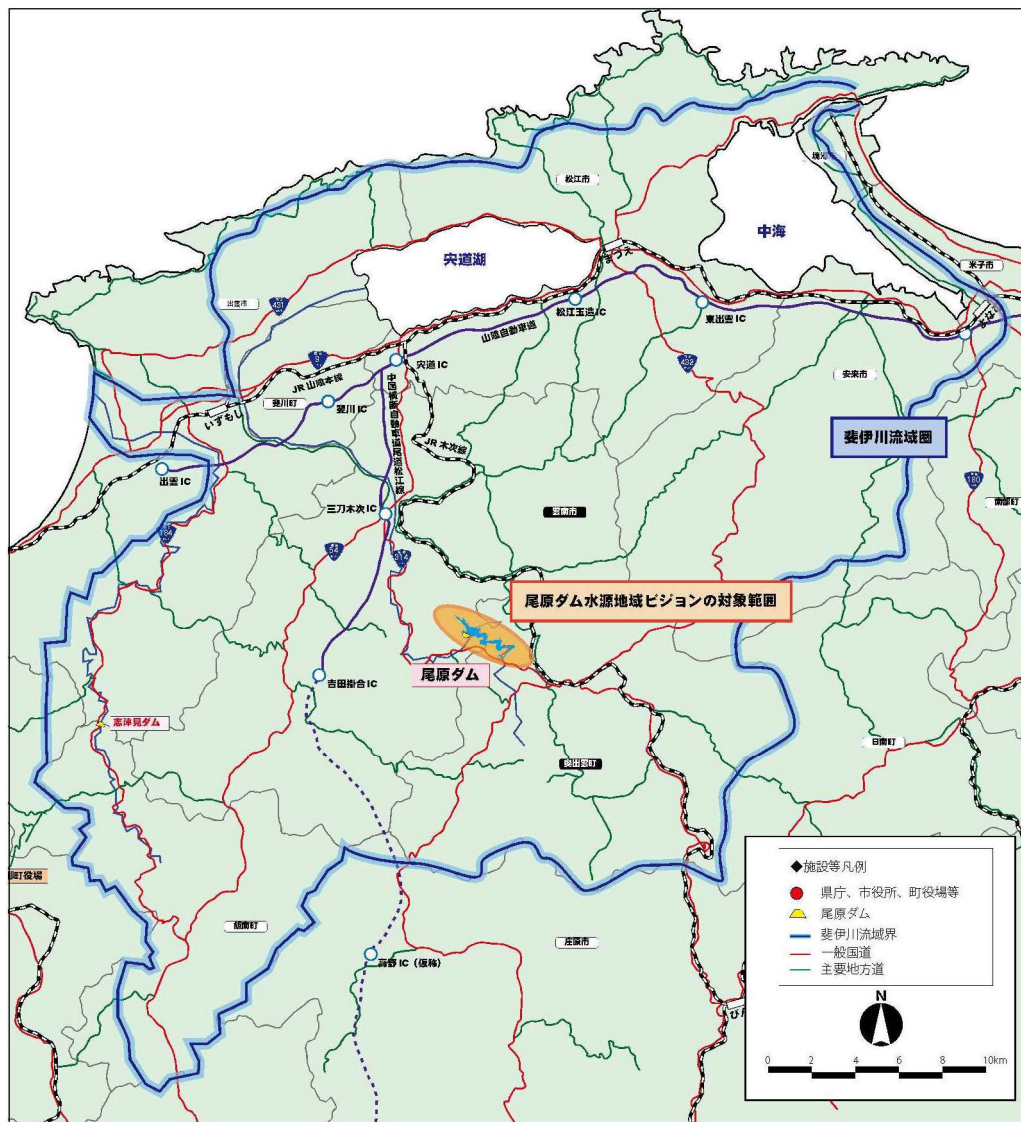
基盤：人材、資金、ノウハウ

・ 斐伊川水源地域の森と水の資源を守り育み、活かす

・ 上下流連携と地域連携から斐伊川流域圏の絆をつくる
・ 尾原ダム水源地域の自然・歴史・文化を活かした観光交流を図る
・ 尾原ダム湖と周辺を活用したスポーツ振興を図る
・ 豊かな水と大地が育む恵を活かした産業振興を図る

6.尾原ダム水源地域ビジョンの対象範囲

尾原ダム水源地域ビジョンの対象範囲は、尾原ダム、及びさくらおろち湖周辺を基本としますが、上下流交流イベントの開催や産業の振興などの取組に応じて雲南市や奥出雲町、斐伊川流域等も範囲とするなど、地域活性化に向けた活動の内容に応じて柔軟に設定します。



尾原ダム水源地域ビジョンの対象範囲